

『桜
（咲良を待ちながら）』

作 四方田直樹

登場人物

田中和子(たなかかずこ) 和子 母 高校を卒業した娘(咲良)の母

田中武尊(たなかたける) 武尊 高校を卒業した娘(咲良)の兄

田中正博(たなかまさひろ) 正博 高校を卒業した娘(咲良)の父

牧田竜也(まきたたつや) 牧田 咲良の元クラスメイト。

田中咲良(たなかさくら) 今日高校を卒業した ※登場はしない。

場所

高校を卒業した娘、田中咲良の家。ダイニング。

時

三月の中旬。咲良の卒業式の日。夕方。

アルバイトに行く準備をしている武尊、ついTVで相撲観戦。
ぼおっとTVを見ている。

玄関が開き閉じる音。

和子が帰ってくる。

和子（独り言）ふう、終わった終わった。はあ。

和子、武尊に気がつく。

和子 あれ？バイト。

武尊 今日7時から。

和子 あそう。何だ頼めば良かった。

武尊 なに？

和子 あれ、

和子人差し指を立ててくるくと回す。

武尊 買い物？

和子 そそそ。

武尊 えー（笑）（違うでしょ何にもなかったでしょ頼みごとなんて）

和子、バッグからペットボトルのお茶を取り出してぐいと飲む。

和子 はー。

武尊 無事終わったの？

和子 まあねえ。卒業式なんて見てるだけだからねこっちは。あーでも寒くてさあ。

武尊 あー体育館。

和子、懐からカイロを2つ、足元からさらに2つ取り出す。

和子 カイロ足んなかった。

武尊 つけすぎ。

和子 すぎじゃないのよ。ないない。

和子、もう冷たいカイロとまだ熱のあるカイロを触り比べ、熱のある方だけを再び付け直しながら、ふっと笑う。

和子 いやあ。これで教育費もうかかんないと思うと。はー。ひと段落だよ。ほんと。

武尊、和子の言葉に答えずTVを見る。

和子 就職なんてと思ったけどさ。あれだけど、ほっとはするわ。タケが二年余計にかかった分ね。

武尊 一年しょ。留年。

和子 入るのにも一年かかったでしょ。

武尊 ああ。……お世話になりました。

和子 いえいえ。タケも早く就職してね。

武尊 はい。

和子 ふう、晩ごはんめんどくさいなあ。

武尊 なんか取れば？

和子 ええ？……寿司とるか。

武尊 カツパ寿司？

和子 たまには「みなと寿司」頼むか。

武尊 おお。……俺バイト。

和子 あんたの分も頼んどこか？

武尊 ー硬くなるし。もったいなくね？

和子 いらない？

武尊 とつといて。

和子 あんた上でいいのよね。

武尊 うん。ウニいらない。

和子 ヨシ。寿司！

和子立ち上がり、着替えに寝室に向かおうとして振り返る。

和子 咲良帰ってくるかなあ？食べるよね？

武尊 一緒じゃなかったの？

和子 クラスの子たちとカラオケ。

武尊 帰ってくるんじゃない？頼んどけば？

和子 そうね。

玄関チャイムが鳴る。

和子向きを変え玄関に向かいながら、

和子はーい。

和子、玄関に去る。

玄関が開く音。

再びTVを見る武尊。

TVでは取り組みが始まり終わる。

武尊 稀勢の里。

玄関の方から喧騒が聞こえる。

武尊、玄関の方向を見る。

のち、

和子が牧田の腕を引っ張りながら戻ってくる。

牧田、手にジュエリーブランド「4℃」の紙袋を持っている。

牧田、強く抵抗し、すると和子の拘束を振りほどき玄関に逃げようとする。

和子 あ。

和子、再び牧田の腕を掴むも10代男子の力

は強く対抗しきれずると玄関方向に消えてゆく。

和子(声) タケー。ちよつと。ちよつと！

武尊、立ち上がり玄関方向に向かう。

のち、抵抗をやめ諦めた牧田が和子に引っ張られ、武尊に押されるようにしてダイニングに入ってくる。

和子が手を離し椅子をすすめる。

和子 どうぞつ。

牧田 すみません…

牧田、そろりと椅子に座る。

和子と武尊も椅子に座る。

武尊 えつと。(和子に) 咲良の友達かなにか？

和子 そう。えつと牧田くん。だっけ？

牧田 いえ、あの

和子 牧田くんじゃない？

牧田 牧田です。じゃなくて友達というかあの…田中さんとは一年の

時間じクラスで……

武尊 ええ？

武尊、和子を見る。

和子、ものすごくニヤニヤしている。

武尊 何？

和子 ひゃひゃひゃひゃ(笑)

武尊 何よ？

和子 TV見てる？消さない？

武尊 いいけど。

和子 消してくれる主電源から？

武尊、立ち上がりTVの主電源を切る。

和子が武尊に詰め寄り、耳打ち。

武尊 ぐっ(何？)

和子 告白しに来たみたい。

武尊 の？

和子 咲良に告りに来たのよ。

武尊 ええ？

武尊が牧田を見る。牧田、ダイニングを眺めている。

武尊が椅子に戻る。

和子、そそくさと台所へ向かうため一度去る。

武尊 ええと。

牧田がさつと武尊を見る。

武尊 ええと。兄。です。

牧田 はい。

武尊 咲良の。兄です。兄妹。

牧田 あ！田中さんのお兄さんですか！

牧田立ち上がり、武尊に礼。

牧田 あの牧田竜也です。

武尊 ご丁寧に……。

牧田再び椅子に座る。

武尊、自分の携帯電話で咲良に電話をかけ始める（留守番電話になる。数度かける）。

和子がお茶(湯呑)×3つと缶ジュース(250ml缶のサイダー)、をお盆に乗せて持ってくる。

和子 お茶がいい？サイダー？

牧田 あ。お茶で。

和子 そう？

和子、お茶を牧田の前におき、のち武尊、自分とおいてゆく。

牧田 すみません。

和子 じゃ、サイダー帰り持ってきてきなさい。ね。

牧田 いえ。大丈夫です。

和子 まあまあ。ね？

武尊 無理強いすんなって。小学生じゃあるまいし。

和子 え？

牧田 ありがとうございます。

和子、椅子に座る。

和子 牧田君はお家はどっち？

牧田 高島平です。

和子・武尊 団地。

牧田 いえ。うちは普通の家で。

和子 一軒家。へえ。

和子、お茶を一口飲む。

和子 じゃ、ちよつと戻る感じだね。

牧田 はい。

和子 ついでは来れないね？ウチには。

牧田 はい？

和子 ウチ。

間

和子 咲良に会いに来てくれたの？わざわざ。
牧田 ……はい。

和子 あの子ねクラスのほら、みくちゃん？たちとカラオケいっちゃったのよ。帰ってくるように電話しよつか？

牧田 え？いや、わざわざ！

和子 え？

牧田 ……。

和子 電話していい？

牧田 ……お願いします。

和子 ハイ。

和子、携帯電話を取り出し咲良に電話しようとする。

武尊 出ないよ。

和子と牧田、武尊を見る。

武尊 さつきからかけてるけど。アイツでやしない。

和子 そうなの？ああ。カラオケだからねえ。

武尊 留守電とメールしといたからそのうちかかってくるんじゃない？
い？

和子 そう？

武尊 そつから帰ってくるとしても一時間はかかるんじゃない？

(牧田に) 待つ？

牧田 え？えつと…。

和子 待つわよね。夕飯食べてく？お寿司一人前追加するから。

武尊 ろ(飛ばしすぎ)。

牧田 夕飯は大丈夫です。

和子 遠慮しなくてもいいのよ？

牧田 ウチでもお祝いする予定なので。

和子 ああ。そうだもんね。卒業だもんね。

牧田 ばあちゃんが。

和子 おばあちゃんのご健在なの？

牧田、うなづく。

牧田 じいちゃんと同じ大学に受かったのすごい喜んでて。卒業式にあわせてお祝いだつて。

和子 そう。それはいいわねえ。

武尊　じゃあ帰った方がいいんじゃない？
牧田　あの。もう少し待たせていただいてもいいでしょうか。
和子　どうぞ。遠慮しないでね。

三人、お茶を飲む。

和子　あの子の部屋いつてみる？

牧田、お茶を吹く。

牧田　ふぐっ！

武尊　だめでしょ？

牧田、うなずく。

和子　そう？

武尊　だってねえ？

牧田　はい。僕、ただの元クラスメイトですよ。

和子　あ、そうか。

牧田　はい。

和子　友達でもないってことか。

牧田　はい…。

牧田、自分で言っただけで落ち込む。

和子　あの子のこと好いてくれてるの？

牧田、動揺と戸惑い。

牧田　内緒にしてくださいますか？

和子　誰に？

武尊　咲良にでしょうよ。

和子　そう？しないとだめ？

武尊　だめだと思っよ。ねえ？

牧田、強くうなずく。

和子　そうなの？うん。わかった咲良には言わない。内緒にする夕
ケ、あんたもいいわね。

武尊　まあ。はい（牧田を見て）約束します。

牧田、覚悟を決めてうなづく。

牧田 僕は……田中さん……田中咲良さんが……すすす好き、ずつとずつと好きでした。あ、今も好き、あ、です。
和子 そう。

和子、ポケットティッシュを牧田に渡す。

牧田、いつの間にか泣いている。

牧田、ティッシュを受け取り、涙を拭き、鼻をかむ。

牧田 初めて。声に出して言いました。

和子 そう。

武尊 咲良いないけどねえ。

和子 なんか、熱いわねえ。

和子、カイロを外し上着も脱ごうとするも、どうせなら着替えてこようと思う。

和子 あたしいつまで卒業式のカッコだか。ちよつとまってるよ。帰らないですよ。

和子、着替えに去る。

武尊 勝手だねえ。ごめんね。

牧田 似てますよね。

武尊 え？あ、咲良と？そう？

牧田 細さとか。

武尊 ああ。そうねどっちかっていうとそうね。ウチみんな細いつていうか長いっていうか。

牧田、うなづく。

武尊 どこがいいの？

牧田 はい？

武尊 咲良の？

牧田 ……存在が。

武尊 そんな？ああ存在か。全部ってこと？

牧田 んーちよつと違うけど、まあそうです。同じ惑星（ほし）に生まれて同じ日本の板橋区と同じ高校の同じ学年で一度でも

同じクラスになれた奇跡に感謝です。

武尊 ……そうなの。そんな？

牧田 はい。

武尊 アイツそんなにかわいくないでしょ？

牧田 かわいいです！

武尊 今風じゃないし。

牧田 素敵です。

武尊 西野七瀬とアイツだったら？

牧田 誰です？

武尊 ななせまる。知らない？乃木坂46。いや、AKBでもモモ

クロでも誰でもいいけど。

牧田 妹さんです。

武尊 ええ？そんな？夜寝れなかったりするの？

牧田 はい。

武尊 詩とか書いちゃったり？

牧田 はい。

牧田、バッグからノートを取り出して表紙を見せる。

表紙にはマジックで「VOT8」とだけ書かれている。

武尊が見せて、と手を出す。

牧田、渡しかけて引っ込め、仕舞う。

牧田 だめです。だめだめ。

武尊 すごいね。ほぼ高校中ってことでしょ？

牧田 すごくないです。だめです。(好きって言えなくて)結局、卒業式になっちゃいましたから。

武尊 そっか。なんだかあれだよね。

牧田 あれですか……

武尊 悪い意味じゃなくてね。ムズがゆいっていうか。ねえ。……
咲良じゃないとだめなんでしょ？

牧田 ……はい。

武尊、首の後ろで腕を組みながら

武尊 人類の半分は女なのにねえ。

玄関が開き、閉じる音。

武尊 帰ってきた？

牧田 !

正博が部屋に入ってくる。

和子、着替え終えて（というか咲良が帰ってきたものと思つて急いで）戻ってくる。

和子 あれ？お父さん早いわね今日。

正博 ただいま。

和子 おかえんなさい。

牧田、勢い良く立ち上がる。

牧田 おじやましております！

牧田、深くお辞儀。

正博 ああ。どうも。

正博、「だれ？」と聞くように和子を見る。

和子 ああ、牧田君。

牧田 牧田です。

和子 咲良の彼氏。

正博 え？

牧田 違います！

あたふたとした間。

牧田 そんな大それた。

和子 え？お付き合いしないの？

牧田 それはあの田中さんしただいで。

和子 お付き合いしたくないの？

牧田 ……お付き合いっていうか結婚したいです！

和子 まあ。

正博 どういうことだよ？

武尊 まだ、返事っていうか告つてもねえんだよ？

正博が武尊を見る。

武尊 咲良の学校の子。咲良に言いに来たんだつて。

正博 なにを？

武尊 その、告白。

和子 好きなんだって。咲良が。

正博 お！？

正博、牧田を見る。

正博 あ、今日卒業式だから。

武尊 そうそう。

正博 はあ。あ、いや。はあ。

正博、じつと牧田を見る。

牧田 すいません！

正博 いや……

正博、戸惑う。

正博、思い立って台所へ。冷蔵庫から缶ビールを二つ持ってきて一本を牧田に。

正博 飲む？

和子 ダメダメダメ。

武尊 ダメでしょ？

正博 え？

和子 お父さん、いろいろダメ、それは。

正博 そうか？

牧田 いただきます！

牧田がビールを手取る。

武尊がビールを奪う。

武尊 無理しなくていいから。

正博 お前飲むか？じゃ？

武尊 これから仕事。

正博 そうか。じゃ、悪いね。

正博、缶ビールを開け、一口飲む。

正博 はあ。

正博、和子を見て、

正博 今日なに（晩飯）？

和子 えっと。お寿司とるつもりだけど。

正博 そう。えっと……咲良は？

和子 カラオケ。

正博 連絡は？

武尊、首を横にふり、

武尊 メールは入れといたけど。

正博 そう。

正博、ビールを一口。

正博 うーん。

正博、牧田を見る。

牧田 お邪魔でしょうか？

正博 まあ。いや、そうじゃないんだけど。

正博、ビールを飲みながら頭をかく。

正博 こういうの帰るしかないんじゃないかって……うーん。いや、
帰らないのがいいのか。な？どう？

武尊 どうつても…

正博 俺の親父とかなら「帰れ」でしMAINなんだけどさ。

正博、二本目のビールを開ける。

和子 お父さんペース早い。

正博 あ、ごめん。

正博、すつとビールをすすする。

正博 まあ。

武尊 何？

正博 電話してみろよ。

武尊 何？

正博 もう一回さ。

武尊、再び咲良に電話。
しばらくコールが続き、電話がつながる。

武尊 もしもし、咲良？もしもし

武尊の電話をじっと見る牧田。
電話からはカラオケルームの騒音。
咲良の友達が歌うが聞こえてくる。

武尊 もしもし、あのさ、もしもし。もしもーし？

通話切れる。

武尊 ダメ。うるさくて。

和子 つながるまでかけたら？

正博 (牧田に) どうしたらいい？

牧田 え？

牧田、しばし考えて、

牧田 待てる限り待ってもいいですか？

正博 いいよ。

正博、二本目のビールを飲み干す。

正博、次のビールを取りに行こうとする。

和子 まだ飲むの？

正博 え？ダメ？寿司なの？

正博、和子台所に去る。

武尊 折り返しかけてくるでしょ。

武尊、携帯電話をテーブルの上に置く。

時間が過ぎてゆく。

武尊、出かける支度するために一度去る。
和子が牧田に改めてお茶を出す。
正博、ノンアルコールビールを飲みながら戻ってくる。

和子が「みなと寿司」のメニューを見つつ電話。しながら、小鉢のつまみと箸を正博の前に置く。
正博、その箸を持ってつまみを食べながらノンアルコールビールをちびちび。

牧田は武尊がおいて行った携帯電話をじっと見ている。

一瞬の暗転（時間経過）

携帯電話が鳴る。武尊ではなく牧田の。

牧田、携帯電話に出る。

家からの電話。

正博、つまみを食べつつ牧田を見る。

和子は台所から顔を出す。

支度を終えた武尊はジャンパーをきながらやってくる。

牧田 もしもし。竜也ですけど。え？えっと……友達んところ。あ、うん。……うん。うん。ごめん。はい。はい。……はい。

牧田が電話を切る。

田中家の3人が牧田を見ている。

牧田、しばし考えたのち顔をあげる。

牧田 帰ります。

和子 お母さん？

牧田 はい。

牧田、深くお辞儀。持ってきた「4℃」の紙袋を持ちあげる。

牧田 お邪魔しました。

牧田、玄関に向かおうとする。

正博が牧田の制服の袖をつかむ。

牧田、振り返り正博を見る。

正博 いや、

正博、牧田の袖を離す。
牧田、再びお辞儀。玄関に向かう。
和子が見送るためについてゆく。

和子　ほとんどごめんね牧田くん。

正博と武尊、玄関の方を見る。
武尊が振り向き正博を見る。

武尊　何でつかんだ？

正博　あ？

武尊　さっき。

正博　あいつがうちにはいるのってこれで最後だろ？

武尊　え？わかんないじゃない？

和子(声)　あの子引越しまでにまだしばらくいるから。また遊び来なさいよ。ね。

武尊　ほら。

正博　お前は(笑)

武尊　何さ。

正博　いいよ。何でも。

玄関が開き閉まる音。

正博、じつと玄関の方を見ている。

武尊、腕時計を見る。

19時、10分前。

武尊、テーブルの上の携帯電話を手取る。

武尊　おおとつとと。いってきまーす！

和子、戻ってくる。

和子　お寿司、冷蔵庫に入れとくから。

武尊　ハイハイ！

武尊出てゆく。

玄関が開き閉まる音。

和子、正博の隣の椅子に座る。

和子、正博をじつとみる。

和子　わかるの。ねえ。

正博 何？

和子 誰か思い出したの？

正博 何よ(笑)

正博、和子の手を取る。

和子 ごまかす。

つないだ手でじゃれる二人。

しばらくして、正博、和子の中指をそっと撫でる。

正博 細くなった？

和子 そう？まあそうよそれは。子どもが二人とも社会に出る年になっただもの。そうよそれは。

正博 そうか。そうだなあ。

和子の携帯電話の着信音(咲良からの電話)。

和子、電話に出る。

和子 あんた今頃何？…そうだろうけど。廊下でもなんでも電話しなさいよ、もー。終わったのカラオケ？帰ってくるのね？お寿司よ。お寿司。違うわよ「みなと」さんよ今日は。そう、「みなと寿司」。(なんでって)あんたのお祝いにきまつてるでしょ。早くしないと食べちゃうからね。はい。はい。はい。
和子が電話を切る。

和子 咲良、帰ってくるって。

正博 ん。

正博、頷き、ノンアルコールビールを一口飲む。

了